

行政視察内容報告書

令和2年11月25日

土佐清水市議会

議長 永野裕夫 様

(提出者) 会派名 議会会派みらい

氏名 山崎誠一



下記のとおり報告します。

項目	■現地調査	■行政視察	□要請・陳情関係		
	□研修会への参加	□会議への参加	□その他 ()		
参加者	作田喜秋 浅尾公厚	谷口佳保	武政健三	山崎誠一	
	計 5				人
期日	令和2年11月11日～令和2年11月12日				

【概要】(年月日・場所・内容)

日時 令和2年11月11日

場所 高知県安芸市川北甲 山のくじら舎

内容

国産の間伐材や建築端材を玩具や雑貨、ノベルティ等に加工、環境保全・森林保全のため、SDGsやカーボンオフセット等の普及に努める企業工房の視察を行いました。この企業は森林環境譲与税の趣旨に沿った企業運営を行っているとのことであり、本市も、本年度9月補正で「木とともに子どもの成長を見守る事業」について予算化し、保育園・幼稚園に木製のおもちゃを配布するとのことであり、補助事業の財源が森林環境譲与税の趣旨に適しているようです。工房での視察は玩具に使用する板材が県産材であり、板にして寝かせ、玩具やノベルティ商品等にするとといった作業工程を見ました。また、企業活動では県産商品売って行くために宣伝・付加価値・コンセプトはといった理念も聞きました。地域企業として周辺の家具職人との作業の分業や雇用の面では働きがいのある職場を目指すなど、自分だけ良ければ良いという意識より、地元を良くしていこうとする意義に徹している企業活動かと思いました。作られている玩具の一例では皇室も使用している事もあり、東京の産科では出産祝いに贈っているといった話も聞きました。この企業の取り組みは森林管理から発生する間伐材の利活用に繋げる活動として、提案をして行かなければならない一例ではと思いました。

※ノベルティ：企業が自社や商品の宣伝を目的として、それらの名称を入れて無料配布する記念品を指す。

※SDGs：国連の持続可能な開発のための国際目標であり17のグローバル目標と169のターゲットから成る。

山のくじら舎は12番の「つくる責任・つかう責任」15番の「陸の豊かさを守ろう」に取り組んでいる。

日時 令和2年11月12日

場所 津野町役場・葉山風力発電所（四国カルスト）

内容

津野町役場を訪問し、タブレット議会、地域おこし協力隊の活動について、津野町黒川～白石周辺に設置している風力発電設備について学習を行った。

1. 津野町のタブレット議会について

○タブレット導入の経緯

- ・令和1年6月にまずはタブレットを知るための議員研修を実施した。
- ・行政改革が進む中で、住民サービスの向上や事務の効率化を図ることは必要不可欠である。
- ・議会資料の印刷の手間、資源の無駄等を考えれば、改善策の一つとしてペーパーレス化を検討した。

○タブレット導入のメリット

- ・既存のPCから資料のアップロードをすれば、瞬時に情報の共有が可能。
- ・業務の効率化（印刷・配布・差し替えに係る人件費や時間の削減）
- ・資料の省スペース化（過去の資料を確認する時に非常に便利）
- ・情報収集ツールとなる（ネット検索で情報収集）
- ・会議や研修の開催通知等がすぐに連絡できる（今までは手紙の郵送）
- ・広報誌、会議録、各種資料が携帯により地域住民への説明が可能

○タブレット端末の用途・利用範囲

- ・各文書の閲覧。本会議での議案書・予算書・配布物、議会関係条例・規則等、国・県等からの通知文書、年間予定表・入札結果、委員会資料、各議員から依頼の資料。
- ・議会事務局と議員間での連絡。
- ・高知家防災アプリ導入。
- ・インターネットでの資料検索。等々

○タブレット端末の配布状況（25台）

- ・議員10台（全議員）、議会事務局2台（局長・書記）執行部13台（町長・副町長・教育長・各課室の長10名）

○セキュリティ管理等

- ・タブレット端末について、アンドロイド系のようにセキュリティソフトを入れなくても、ソフトウェアのアップロードの更新を行うとその都度最新のセキュリティソフトが入る。

○危機管理への運用

- ・災害時に災害対策本部と各指定避難所との連携が取れるようにしている。
- ・議会では災害時の情報収集、写真撮影による現場の状況報告などの活用が可能、災害対策本部・執行部から議員へ随時情報提供する。

○費用対効果の見込み

- ・業務の効率化（印刷・配布・差し替えに係る人件費や時間の削減）

- ・コストの削減（紙代・インク代・封筒代・切手代）
- ・管理と活用（資料の省スペース化、大量の紙媒体の資料がタブレットに保存でき、すぐに過去の資料を確認することも可能）

○タブレット導入に係るコストについて

- ・導入時のコスト、1台当たり約53,130円
- ・ランニングコスト、1台当たり約7,535円

◎タブレット導入における必要性について思ったこと

- ・議員が津野町町民から相談を受けた際に、町の事業に該当するかどうか補助要綱の確認をしたいと事務局に連絡があり、タブレットを活用して住民へ説明をしたいという事例がある。市民への広報としての情報提供が迅速に行えて議会だけでなく市役所が身近に感じられるのではないかと思った。
- ・費用の削減だけでなく議会の機能向上と市民への迅速な対応を可能とする事は、議会改革を目指す上でそれ以上に大切である。
- ・導入は必要だと思う。費用対効果を見極める必要はあるが、メリットが多いと判断している。

2. 地域おこし協力隊の活動について

○津野町では過去に6名の隊員が活動して任期終了し、現在町内で農業をしている方が1名、起業者2名、移住し他の町へ勤務1名、県内在住1名、県外へ転出1名。
現在7名が活動中で集落活動支援やミッション提案型活動、観光振興、教育支援で塾経営といった活動を行っていました。特に津野町の地域おこし協力隊は地域と協力隊だけでなく協力隊と協力隊が連携した活動が特徴でした。

3. 津野町黒川～白石周辺に設置している風力発電設備について（葉山風力発電事業）

事業概要

事業者：(株)葉山風力発電所

設置場所：四国カルスト

事業費：約40億円

生産国：日本・三菱重工

発電能力：20,000Kw 1基あたり1,000Kw×20基

年間発電量：4,800万KWh（計画量）平均的家庭約13,000世帯分消費電力を賄う

環境効果：上記の発電量を火力発電で行うと、石油約12,000キロリットル（ドラム缶60,000本）を消費し、CO₂（二酸化炭素）を33,000トン発生させる。このCO₂を吸収させるのに、杉の木の場合、約240万本は必要との事。

4. 質疑内容・感じたことについて

○風力発電所についての町民からの苦情はないか、騒音について

- ・建設地に最も近い住居地は1Km程度離れている。地区への風車による騒音は30dB程度と予想されている。これは環境基準（昼間60dB、夜間50dB）を大きく下回

り、騒音が周辺居住者に与える影響は殆んど無いと評価されている。との説明が現地風力発電会社員から有った、当日は風が無く風車は停止していたので音に関しては確認できなかった。

○景観について

- ・北山地域（旧葉山村）環境影響評価書においては風力発電が圧迫感や威圧感を与えることは無いと予想されており、背景にもなじみやすいと予想されている。当日は四国カルストの雄大さを感じ、カルスト台地と風車を観光する車が駐車し、通過する状況であり、観光資源になっているなど思った。また、風車が立っている周辺は整備されており、土が流れた様な地形にはなっていなかった。隣接道路も舗装され荒れて土地の状況になかった。今ノ山周辺の地形と四国カルストの地形が山頂部では随分違うのではないかと、高さや土壌で環境が違いその事が動植物分布にも違いが出てくるのではないかと考えた。今後の環境アセスメントを待つしかないのかと感じている。
- ・頂上までは補装道が曲がりくねって付いていた、道の両脇は広葉樹も見えたが、やはり杉が目立ち、その道を利用して伐採して出していた。

○動植物について

- ・事業実施に当たる伐採を伴う土地改変面積は小さく動物への影響は小さいと予想される。偉業に伴う植生・植栽は在来種を基本にする。
- ・くまたかはその後、600m範囲で活動しているとの事。
- ・四国カルストの頂上部であり、風車周辺には生い茂る木・地に生える草も少なく、それに伴い動物もいないようでした。